

## American Association for Clinical Pathology による ASCP International 資格

坂本 秀生\*

### はじめに

日本と異なり、アメリカでの臨床検査技師免許は合衆国政府からの免許制度ではありません。臨床検査技師免許や医師免許に限らず自動車免許を含め、基本的に免許制度は各州に委ねられています。臨床検査免許が他職種の免許制度と異なる点は、全米で13州のみしか試験制度を課していない点です。残りの州では今回紹介する American Association for Clinical Pathology, ASCP を代表とする4つの非営利団体によって臨床検査技師としての「Certificate, 認証」を得ています<sup>1)</sup>。例えば今回紹介する ASCP は1928年よりアメリカ国内にて、43万人以上の臨床検査に関わる技術者や専門家の認証を行っています。

ASCP では2007年より国際資格として、ASCP International (ASCP<sup>i</sup>) を設けアメリカ国外へも門戸を広げました。当初は韓国とフィリピン国のみで始まりましたが、2009年に日本からも受験可能になりました。ASCP 資格との大きな違いは、試験にアメリカ国内で有効な法律に関する問題が ASCP<sup>i</sup> では出題されない点と、アメリカ国外の学校を卒業していても受験資格があることです<sup>2)</sup>。

本稿では2009年より日本からも受験が可能になった、ASCP<sup>i</sup> について概要を紹介致します。ASCP<sup>i</sup> 受験は全て英語で行いますが、受験に際しての英語力を評価する試験はありません。

### I. ASCP の認証資格分類

資格取得に際しては学士(Bachelors of Science, BS もしくは Bachelors of Arts, BA) 取得の有無によって大きく異なります。短期大学及び専門学校を卒業した者は Technician 資格、学士保有者は Technologist 資格の認証をそれぞれ得ることが可能です。各資格は表1に示したように複数に分類され、各自の専門性によって選択可能です。表1には示しておりませんが、上級資格として各検査に専門家として認証する Specialist 資格、免疫染色やサイトメトリーなどの熟練を認証す

表1 ASCP の Technician と Technologist 一覧

#### Technician

Medical Laboratory Technician, MLT (ASCP)  
Histotechnician, HT (ASCP)  
Phlebotomy Technician, PBT (ASCP)  
Donor Phlebotomy Technician, DPT (ASCP)

#### Technologist

Medical Technologist, MT (ASCP)  
Cytotechnologist, CT (ASCP)  
Histotechnologist, HTL (ASCP)  
Technologist in Blood Banking, BB (ASCP)  
Technologist in Chemistry, C (ASCP)  
Technologist in Hematology, H (ASCP)  
Technologist in Microbiology, M (ASCP)  
Technologist in Molecular Pathology, MP (ASCP)

\*神戸常盤大学保健科学部 医療検査学科 h-sakamoto@kobe-tokiwa.ac.jp

表 2 ASCP<sup>i</sup> 資格分類と受験料

	受験料金
<b>Technician</b>	
International Phlebotomy Technician, PBT (ASCP <sup>i</sup> )	125 US ドル
International Medical Laboratory Technician, MLT (ASCP <sup>i</sup> )	175 US ドル
<b>Technologist</b>	
International Medical Technologist, MT (ASCP <sup>i</sup> )	200 US ドル
International Technologist in Molecular Pathology, MP (ASCP <sup>i</sup> )	200 US ドル

表 3 国際資格と受験ルート

<b>International Phlebotomy Technician, PBT (ASCP<sup>i</sup>)</b>	
Route 1	高校卒業もしくは同等学力を有し、正式な静脈採血プログラムを修了し、承認された検査室*にて実習し 50 例以上の採血成功経験がある。
Route 2	高校卒業もしくは同等学力を有し、正式な静脈採血プログラムを受け、承認された検査室*にて一年以上の採血業務経験がある。
Route 3	高校卒業もしくは同等学力を有し、看護学もしくは静脈採血実習を含んだ生物学を履修し、承認された検査室*にて実習し 50 例以上の採血成功経験がある。
<b>International Medical Laboratory Technician, MLT (ASCP<sup>i</sup>)</b>	
Route 1	最低で 2 年以上の生物学もしくは化学系の履修者、もしくはそれと同等レベルの教育を受け、臨床検査実習#を完了している。
Route 2	最低で 2 年以上の生物学もしくは化学系の履修者、もしくはそれと同等レベルの教育を受け、承認された臨床検査室*にてフルタイムで 3 年以上の業務経験がある。
<b>International Medical Laboratory Technician, MT (ASCP<sup>i</sup>)</b>	
Route 1	臨床検査学に関する学士保持者、もしくはそれと同等レベルの教育を受け、臨床検査実習を完了している。
Route 2	臨床検査学に関する学士保持者、もしくはそれと同等レベルの教育を受け、承認された臨床検査室*にてフルタイムで 3 年以上の業務がある。
Route 3	最低で 2 年以上の臨床検査修業証明書保持者、もしくはそれと同等レベルの教育を受け、尚かつ分野は問わず学士を保持し臨床検査実習を完了している。
Route 4	生物学もしくは化学系の学士保持者、もしくはそれと同等レベルの教育を受け、承認された臨床検査室*にてフルタイムで 5 年以上の業務経験がある。
Route 5	最低で 2 年以上の生物学もしくは化学系の修業証明書保持者、もしくはそれと同等レベルの教育を受け、尚かつ承認された臨床検査室*にてフルタイムで 5 年以上の業務経験がある。
<b>International Technologist in Molecular Pathology, MP (ASCP<sup>i</sup>)</b>	
Route 1	生物学もしくは化学系の学士保持者、もしくはそれと同等レベルの教育を受け、臨床検査学を履修している。
Route 2	生物学もしくは化学系の学士保持者、もしくはそれと同等レベルの教育を受け、承認された臨床検査室*にて最低一年のフルタイムで分子生物学的検査経験がある。
Route 3	生物学もしくは化学系の修士号もしくは博士号を保持し、承認された臨床検査室*にて最低半年のフルタイムで分子生物学的検査経験がある。

注 1\* CAP, ISO9000 等の団体もしくは該当国政府からの認証を得た検査室。臨地実習等学校の授業として組み込まれていない、臨床検査室経験はここに含む。

注 2# 該当国の政府から認可を受けている学校であり、輸血学、化学検査、血液学検査及び微生物学の講義及び実習が含まれていること。

る Qualification 資格等もあります。

## II. ASCP International の認証資格分類

ASCP 資格と同様に学士の有無により、受験可能な資格が異なりますが、その種類は表 2 に示すように限られております。将来的には分野別の資格や、ASCP への変換試験 (Transition examination) も計画されております。以下に受験の流れを示しますが、内容は更新される頻度が多いので以下のホームページにアクセスし、最新情報の確認は必須です。【[www.ascp.org/international](http://www.ascp.org/international)】

## III. 国際資格と受験ルート

それぞれの資格に複数のルートがあります(表 3)。ご自身の履修状況や就業経験を考慮され、希望される資格の中でどのルートが的確か選択出来ます。尚、表 3 内の説明は各国を対象にし、様々なケースでも受験可能であることを示し、日本の状況に即した訳を行っております。受験前には各自で必ず原文をホームページで確認して下さい。

具体的に日本の専門学校または短期大学の臨床

表 4 国際資格の取得プロセス

手順 1	受験申請する資格を選択する。申請者は 3 ヶ月間に一つの資格へのみ申請できます。各自にあったルートで受験申し込みを行うか選択する。
手順 2	卒業証明書もしくは修了証明書等、臨床検査教育履修を証明する書類を整える。また申請ルートによっては臨床現場での実習や臨地実習済みの証明書の提出も必要なので、手順 1 でどのルートの受験が自身に相応しいか決めておく。
手順 3	自身が揃えるべき書類を整えた後、ホームページ <a href="http://www.ascp.org/services/SelectCertification.aspx">http://www.ascp.org/services/SelectCertification.aspx</a> よりオンラインで受験申し込みを行う。受験料金は PBT (ASCP <sup>®</sup> ) が 125 US ドル、MLT (ASCP <sup>®</sup> ) が 175 US ドル、MT (ASCP <sup>®</sup> ) と MP (ASCP <sup>®</sup> ) は 200 US ドルであり、クレジットカードでその場で支払いを行う。尚、一旦払った受験料は返還されないの、注意して下さい。
手順 4	申請書類が受理されて受験が資格があると判断されると、電子メールにて受験申し込み方法と共に連絡が届きます。このメールが届き次第に Pearson Professional Center のホームページ <a href="http://www.pearsonvue.com/ascp/">http://www.pearsonvue.com/ascp/</a> を介しての受験場所と受験日を決定します。日本では東京都千代田区にある、Pearson Professional Centers-Tokyo にて受験可能です。
手順 5	全ての準備が整ったら、試験勉強です。自身の目指したい資格にて出題される範囲を以下のホームページより入手し、試験に備えます。本試験対策用として 90 日間有効の on line 版の模擬試験、及び傾向と対策とも言える問題集として Board of Registry Study Guide for the Clinical Laboratory Certification Examinations, 5th Edition <sup>®</sup> が発行されており、購入方法なども以下のホームページで確認ができます。 <a href="http://www.ascp.org/FunctionalNavigation/certification/International/StudyMaterials.aspx">http://www.ascp.org/FunctionalNavigation/certification/International/StudyMaterials.aspx</a>
手順 6	受験は Computer Adaptive Testing (CAT) と呼ばれ、コンピュータを用い行います。設問に正解すると次問題はやや難易度が高くなっていき、間違えるまで少しずつ難しくなっていきます。しかし、不正解になった次の問題ではやや難易度が下がります。つまり受験者の習熟度により、問題の難易度がリアルタイムに変更される仕組みです。CAT に関する詳細は以下のホームページで確認出来ます。 <a href="http://www.ascp.org/FunctionalNavigation/certification/GetCertified/ComputerAdaptiveTestingCAT.aspx">http://www.ascp.org/FunctionalNavigation/certification/GetCertified/ComputerAdaptiveTestingCAT.aspx</a>
手順 7	試験時間は 2 時間半で 100 問の問題に解答し、その場で暫定的な結果がコンピュータ画面に表示されます。正式な試験結果は電子メールにて、受験後 10 日以内に伝達されますが、電話での問い合わせには対応しません。試験結果は PASS (合格) または FAIL (不合格) とのみ記載されています。試験問題は前述のように受験者によって難易度が異なるので、各問題の正答率を統計的に処理して採点を配分します。最高スコアは 999 で、最低 400 以上のスコアで合格となります。
手順 8	合格者には受験後 6 から 7 週間ほどで、正式な認証証明書が届きます。認証は生涯有効です。

検査技師養成課程を卒業された方は MLT への受験が可能です。ただし専門学校もしくは短期大学を卒業後、放送大学等から学士を取得すれば学士専攻の分野に関係なく MT への受験も可能です。四年制大学を卒業された方(学士所有者)は、履修課程により MT もしくは MP の受験が可能です。

MLT, MT, MP 資格は学校卒業と同時に受験できるように在学中から受験申請が可能です。PBT に関しては、日本では在学中には採血業務ができませんので、取得を望まれる場合には臨床検査技師国家試験合格後、採血業務の経験を積んでからになります。

#### IV. 国際資格の取得プロセス

複数のステップを踏んで受験申請を行うこととなりますが、全体的な流れを表 4 に示しました。

いずれの資格に臨む際でも、卒業証明書だけでなく臨床検査に関する授業を履修済みである書類を英文で取得し、履修科目が ASCP の基準を満たしているか、外部評価機関からの承認が必要です。日本には臨床検査技師になるための国家試験がありますので、臨床検査技師免許を取得されている、もしくは国家試験受験資格を得ている方が MT もしくは MLT の受験を希望される場合には、書類に不備が無ければ承認は得られます。

ASCP が認める外部評価機関は多数あります(原本は以下のホームページより入手可能です)。

【<http://www.ascp.org/pdf/AcceptableEvaluationAgenciesforForeignTranscripts.aspx>】

#### さいごに

ASCP<sup>i</sup> に関して受験の概要を述べました。希望する資格により必要とされる就業年数、場合によっては勤務経験も必要となる等、受験条件が多岐に渡っております。本稿執筆中の平成 21 年 9 月の段階ではまだ日本からの受験者はおられません。多数の問い合わせを頂き、関心を持っておられる方々の多さに驚きと嬉しさを隠しきれません。受験申請手続きは英語で行わねばなりません。本稿を参考に ASCP<sup>i</sup> の受験に関する大きな流れを掴んで頂ければ幸いです。受験時には、最新情報を各自で必ず確認されることをお願い致します。

ASCP<sup>i</sup> 資格は ASCP 資格と同レベルという点で採用時に必須書類の一つとして利用可能ですが、資格取得＝アメリカでの就業ではありません。アメリカで臨床検査技師として就労を希望される際、医療従事者として VisaScreen の申請と、ビザ取得が必須です。この点に関しては機会を改めて報告させて頂きたく思っております。

#### 文 献

- 1) 坂本秀生, 坂本美佐. 米国での臨床検査. 医学検査 2000; 49(10): 1453-7.
- 2) 坂本秀生. アメリカ合衆国における臨床検査技師資格制度と国際資格. 医療と検査機器・試薬 2009; 32(3): 381-6.
- 3) Tanabe PA and Holladay EB ed. Board of Registry Study Guide for the Clinical Laboratory Certification Examinations, 5th Edition. Chicago: American Society for Clinical Pathology Press 2009.